

# 中村 弘子

NAKAMURA, Hiroko



准教授

所属…人間形成教育センター

URL [www.kankyo-u.ac.jp/~h-nakamu/](http://www.kankyo-u.ac.jp/~h-nakamu/)

E-Mail [h-nakamu@kankyo-u.ac.jp](mailto:h-nakamu@kankyo-u.ac.jp)

## Profile

■ 主な担当科目 Intensive English

### ■ 研究者略歴

1985 (昭和60) 年 3月	神戸市外国語大学外国語学部英米学科卒業
1988 (昭和63) 年 3月	神戸市外国語大学外国語学専攻科修士課程英語学専攻修了
1988 (昭和63) 年 8月	米国イリノイ州立南イリノイ大学大学院修士課程言語障害学科入学
1989 (平成 元) 年 6月	国際ロータリー財団の奨学金給付期間終了後帰国
1990 (平成 2) 年 4月	パルモア学院専門学校専任教員
1991 (平成 3) 年 4月	大阪外国語大学外国語学部非常勤講師
2000 (平成11) 年 4月	宇都宮大学国際学部非常勤講師
2002 (平成14) 年 4月	筑波大学外国語センター非常勤講師
2003 (平成15) 年 9月	米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程入学
2004 (平成16) 年 6月	米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程修了
2009 (平成21) 年 9月	鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授

## Research

■ 取得学位 文学修士 (神戸市外国語大学), Master of Arts (コネチカット大学)

■ 専門分野 英語教育, 応用言語学, 言語障害

### ■ 現在の研究テーマ

- ・日本人のコミュニケーション不安と外国語学習不安
- ・日本人のコミュニケーション不安に関する音響学的分析
- ・言語リズムの習得と母語の干渉について

■ 受賞歴 1988年 国際ロータリー財団大学院留学奨学生

■ 所属学会 大学英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 日本音声学会, ことばの科学会

■ 資格 実用英語技能検定1級, TOEIC®スコア950点, 高等学校教諭専修免許状 (英語)

## Data

### ■ 研究等活動

#### 【著書】

- ・「文法の獲得」(分担執筆), 2007年, 『ことばの認知と仕組み—ことばの科学の最前線』三省堂
- ・「一語文期における母国語の影響に関する一考察—bye-bye vocalizationの日米比較」(分担執筆), 『ことばの心理と学習』1998年, 金星堂

#### 【論文】

- ・「文法基礎知識と英文読解力の向上」, (in press) 『英語学論説資料』第50号 論説資料保存会
- ・「母語でのコミュニケーション不安が英語学習に及ぼす影響について」, 2016, 『ことばの科学研究』第16号
- ・「A comparative study of vocal fundamental frequency in the speech of Japanese and American hearing-impaired children」(共著), 2006年, *Logopedics, Phoniatrics, Vocology*, Volume 31, pp. 1-6.
- ・「L1 communication apprehension and L2 oral proficiency in Japanese university students」2006年, 『外国語教育論集』第28号, pp. 199-207. 筑波大学外国語センター
- ・「Effect of ambient language in the period of first words: bye-bye vocalizations of Japanese and American children」(共著), 2000年, *Asia-Pacific Journal of speech, language, and volume 5.1*, pp.35-43.

#### 【報告書】

- ・「コミュニケーション不安と英語教育」, 2012年, 『鳥取環境大学紀要』第9号・第10号合併号, pp.127-129.
- ・「文法基礎知識と英文読解力の向上」, 2016年, 『公立鳥取環境大学紀要』第14号, pp. 89-93.

#### 【翻訳】

- ・「人間の動機づけと感情における認知」(分担執筆), 2002年, 『感情の社会生理心理学』金子書房

#### 【辞典】

- ・「スピーキングのモデル」「サーキットモデル」「ロゴジェンモデル」「サーチモデル」他, 2003年, 『応用言語学辞典』, 研究社

#### 【国際会議】

- ・"FO Analysis for the Oral Presentation in English by Japanese University Students", 2017年, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, International University of Health and Welfare, Narita, Japan
- ・"Communication Apprehension and L2 Learning Anxiety in Japanese, Korean, and Taiwanese University Students"(共著), 2013年, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, Chung Shan Medical University, Taichung City, Taiwan
- ・"L1 Communication Apprehension among Asian University Students", 2011年, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, University of Canterbury, Christchurch, New Zealand
- ・"A comparative study of vocal fundamental frequency: Japanese and American hearing-impaired children" (共著), 2007年, Canterbury Conference on Communication Disorders, University of Canterbury, Christchurch, New Zealand

### ■ 社会貢献活動

- ・「授業に役立つ英語音声学」, 2014年~2017年, 8月, 教員免許状更新講習
- ・「TOEICセミナー」, 2012年10月~11月, 2014年9月, 2016年, 8月~9月, 公立鳥取環境大学公開講座
- ・第30回兵庫県高校生英語スピーチコンテスト但馬支部予選審査委員長, 2015年10月
- ・「東アジアの英語教育とコミュニケーション不安について」, 2015年7月, 鳥取大学グローバル化社会における多文化共生のための協働育成プログラム
- ・「国際奉仕月間フォーラム」, 2014年2月, 国際ロータリー第2660地区大阪城南ロータリークラブ
- ・「東アジアの英語教育とコミュニケーション不安」, 2012年5月, 鳥取市民大学国際理解講座
- ・「英語が使える日本人」の育成」, 2011年10月, 鳥取環境大学公開講座
- ・公益信託とりぎん青い鳥基金運営委員 (2014年9月~)